

ジフテリア・破傷風予防接種を受けるにあたっての説明

2024.4

1 ジフテリア・破傷風について

ジフテリアはジフテリアの菌の飛沫感染(ウイルスや細菌が咳きやくしゃみなどで細かい唾液や気道分泌物に包まれて空気中へ飛び出し、約1mの範囲で人に感染させること)で起こります。

1981年にジフテリア・百日咳・破傷風(DPT)ワクチンが導入され、現在では患者発生数は年間0~1名程度ですが、ジフテリアは感染しても10%程度の人に症状がでるだけで、残りの人は症状が出ず、保菌者となり、その人を通じて感染することもあります。

感染は主に喉ですが、鼻にも感染します。症状は高熱、喉の痛み、犬吠様の咳、嘔吐などで、偽膜と呼ばれる膜ができて窒息死することがある恐ろしい病気です。発病2~3週間後には菌の出す毒素によって心筋障害や神経麻痺を起こすことがありますので注意が必要です。

破傷風はヒトからヒトへ感染するのではなく、土の中に潜んでいて傷口からヒトへ感染します。傷口から菌が入り体の中で増えますと、菌の出す毒素のために口が開かなくなったり、痙攣を起こしたり死亡することもあります。患者の半数は自分や周りの人では気づかない程度の軽い刺し傷が原因です。日本中どこでも土中に菌はいますので、感染する機会は常にあります。またお母さんが抵抗力(免疫)を持っていれば、出産時に新生児が破傷風にかかるのを防ぐことができます。

<DPT(ジフテリア・百日咳・破傷風)ワクチン(不活化ワクチン)>

I期としてDPT(ジフテリア・百日咳・破傷風)三種混合ワクチンを初回接種3回(3~8週間までの間隔をあけて)、追加接種は1回(初回接種3回終了後、概ね1年後)行います。また、II期として11歳児にDT(ジフテリア・破傷風)二種混合ワクチン接種を1回行います。

確実に免疫をつけるために、決められたとおり接種を受けることが大切です。

※乳幼児期にI期初回及び追加接種を受けていない場合は、効果が不十分です。

2 予防接種の効果と副反応について

ジフテリア・破傷風混合ワクチンの副反応としては、局所の反応が最も多く、頻度に程度の差はありますが、接種後7日までに約31%に発赤・腫脹(はれ)・硬結(しこり)の局所反応がみられます。局所反応は数日で自然に治まりますが、硬結は少しずつ小さくなりますが、数カ月残ることがあります。特に過敏な子で肘をこえて上腕全体がはれた例が少数ありますが、これも湿布などで軽減しています。通常、数日以内に自然に改善するので心配は不要です。また、予防接種と同時にほかの感染症がたまたま重なって、身体症状が発症することがあります。(まぎれ込み反応)

平成25年4月1日~令和4年9月30日までに医療機関から副反応疑い例(有害事象)として報告されたうちの重篤症例の発生頻度は、0.0002%である(令和5年1月第90回厚生科学審議会予防接種・ワクチン分科会副反応検討部会資料から)

3 予防接種による健康被害救済制度について

※給付申請の必要が生じた場合には、診察した医師、岬町立保健センターへご相談ください。

○定期の予防接種によって引き起こされた副反応により、医療機関での治療が必要になったり、生活に支障がでるような障害を残すなどの健康被害が生じた場合には、予防接種法に基づく給付を受けることができます。

○健康被害の程度等に応じて、医療費、医療手当、障害児養育年金、障害年金、死亡一時金、葬祭料の区分があり、法律で定められた金額が支給されます。死亡一時金、葬祭料以外については、治療が終了する又は障害が治癒する期間まで支給されます。

○ただし、その健康被害が予防接種によって引き起こされたものか、別の要因（予防接種をする前あるいは後に紛れ込んだ感染症あるいは別の原因等）によるものなのかの因果関係を、予防接種・感染症医療・法律等、各分野の専門家からなる国の審査会にて審議し、予防接種によるものと認定された場合に給付を受けることができます。

4 接種にあたっての注意事項

予防接種の実施においては、体調の良い日に行うことが原則です。身体の状態に注意して、熱はないか、風邪、下痢、その他の病気にかかっていないか、普段と違ったところはないか等、健康状態をよく確かめてください。

【お子様が以下の状態の場合には予防接種を受けることができません】

- ①明らかに発熱（通常 37.5℃以上をいいます）がある場合
- ②重篤な急性疾患にかかっていることが明らかな場合
- ③受けるべき予防接種の接種液の成分によってアナフィラキシーを起こしたことがある場合
- ④明らかに免疫機能に異常のある疾患を有する場合及び免疫抑制をきたす治療を受けている場合
- ⑤その他、医師が不適切な状態と判断した場合
- ⑥他の予防接種を受けてから、定められた接種間隔が十分でない場合
生ワクチン【麻しん風しん・BCGなど】→ 生ワクチンを接種の場合は27日間以上あける

※新型コロナワクチンとその他のワクチンは、互いに、片方のワクチンを受けてから2週間後に接種が可能、また、原則として、新型コロナワクチンとそれ以外のワクチンは、同時に接種できません。

5 接種後の注意

- ① 急な副反応が起こることがあるため、接種後30分間はお子様の様子を観察してください。
- ② 接種当日及び翌日は、激しい運動は避けてください。
- ③ 接種部位は清潔にしておいてください。
- ④ 接種当日の入浴は差し支えありませんが、発熱、発疹などの症状がみられましたらひかえてください。

<お問い合わせ>

岬町立保健センター

〒599-0311

岬町多奈川谷川2424-3

電話 492-2424